

氏名 しも かわ み か 下川美佳 助教



主な研究テーマ

□剣道の稽古を通じて、剣道を正しく理解し、実践、指導することで、稽古法及び指導法の研究を行っております。特に、剣道の踏み込み動作によって発生する「踏み込み音」に着目した研究に取り組んでおります。

平成30年度の研究内容とその成果

私の専門領域である剣道は、「剣道は剣の理法の修練による人間形成の道である」を理念に掲げ、「わざ」と「こころ」の事理一致による修練を通じて、真の自己のあり方を求める修行です。剣道では、自得・体得が基本ですが、この大きな目標に対して、同じように「道」を志す学生とともに、日々精進しているところです。

授業や部活動を通じた稽古法や指導法の研究と実践により、学生の剣道技術向上に努めております。

具体的な研究内容については下記の通りです。

◆ 剣道における踏み込み音の違いが、打突における冴えや強度の評価に及ぼす影響について検討しました。その結果、異なる踏み込み方による音の違いおよびその音量は、冴えや強度の評価に影響を及ぼすことが明らかとなりました。また、足裏全体で床に接地する踏み込み方によって発生する音が好まれるとの知見が得られました。【剣道における踏み込み音の違いが打突の冴えや強度の評価に及

ぼす影響】

◆ 剣道の打突時複合音（発声、打突音、踏み込み音）における踏み込み音に着目し、踏み込み音が小手打ち時の打突の評価に及ぼす影響について検討しました。その結果、剣道実践者は有効打突の取得のために、踏み込み音に着目した改善の工夫（取り組み）が有益であることが明らかとなりました。また、剣道の審判が有効打突を判定する際には、打突を確実に眼で見定める能力と、打突音と踏み込み音を聞き分ける能力が必要であるとの知見が得られました。【大学剣道における女子競技者の踏み込み音が打突の評価に及ぼす影響】

以上の研究により、踏み込み音と打突の評価との関連が明らかになりました。また、これまで注目されることの少なかった「踏み込み音」に着目し検討したことで、今後の研究の手がかりや課題が明らかとなりました。なお、これらの研究は、JSPS科研費JS17K13140若手研究（B）の助成を受けたものです。

これからの研究の展望

今後も日々の稽古の中で、「わざ」と「ところ」を磨き、体験を活かした稽古法及び指導法の研究と実践を行って、現場に還元できるようにさらに研究を進めたいと考えております。また、剣道は世界大会も実施されており、国際的に普及しつつあります。これらの研究成果が、更なる剣道の普及と正しい剣道の伝承・継承に役立つよう、国内はもちろんの事、海外にも発信していきたいと考えます。

具体的な今後の研究内容については下記の通りです。

◆ 剣道の打突の判断においては耳で聞くことも求められます。しかし、実際に剣道競技者が、打突動作に伴って生じる発声、打突音、踏み込み音などの音をどのように捉えているかは不明です。そこで、剣道における打突動作に伴って生じる発声、打突音、踏み込み音を大学剣道競技者が実践時および審判時に「どのように捉えているか」について明らかにすることを目的として、大学生剣道競技者に対し、実践時と審判時に分け、剣道における打突動作に伴って発生する音に関するアンケート調査を実施しました。本調査では、打突に伴って発生する音に着目する必要性や、今後、この種の研究を進めるための手がかりや課題を得られることが期待されます。なお、本研究は、JSPS科研費JS17K13140若手研究(B)の助成を受けたものです。

◆ 剣道における傷害は踵部に多く、これ

は剣道の特有の動作である踏み込み動作と関連が深いとされています。そこで、踏み込み動作の修正により右足踵部痛を改善した剣道競技者(S競技者)の取り組み事例について分析しました。具体的にはある剣道競技者における、足裏全体踏み込みの習得過程と右足踵部痛改善前後の動作について比較しました。本事例では、右足踵部痛の改善や踏み込み動作を見直したいと考える剣道競技者に対し、具体的な取り組み方法を示すことが期待されます。

◆ 剣道の踏み込み動作の違いにより踏み込み音が異なることや、その音が打突の評価に影響を与えることが明らかとなっています。また、踏み込み動作の違いは右足踵部痛の発生にも影響することが予測されます。そこで、踏み込み動作による足底力と踏み込み音に着目し、右足踵部痛の改善前後を比較したいと考えております。本実験では、剣道における傷害予防と競技力向上の両面から剣道の踏み込み動作を検討し、技術指導に活用可能な知見の提示が期待されます。なお、本実験は、JSPS科研費JS17K13140若手研究(B)の助成を受けております。